

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2091000014		
法人名	社会福祉法人 駒ヶ根市社会福祉協議会		
事業所名	認知症高齢者グループホームいなほ		
所在地	長野県駒ヶ根市赤穂12797 - 1		
自己評価作成日	平成21年10月7日	評価結果市町村受理日	平成22年2月25日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2091000014&amp;SCD=320">http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2091000014&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A		
訪問調査日	平成21年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な環境の中で、残存機能を活かし、その人らしい生活ができるような自由な暮らしを提供している。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>昨年の初回外部評価結果を踏まえて、管理者と職員が丸となって改善に取り組んでおり、意識の高さを感じられた。ホームは家庭的で温かな雰囲気をも有し、明るい笑顔の職員のもとで、入居者は穏やかな表情でゆったりと過ごされていた。居室の入り口には、それぞれに花や写真を使って、その人らしくレイアウトされていて、工夫されていることが伺えた。地域とのつながりを大切に、行事を通じての交流はもとより、日々の暮らしの中での近所付き合いが出来るため、気軽に地域の人々が来所されている。災害対策においても良い関係が築かれ、地区自治会や地区消防団から積極的な協力が得られている。</p>
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらい					
		3. 利用者の1/3くらい					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>理念を理解して、自分の言葉に変えてそれぞれが理解している、ケース会議等で理念の確認をしい、常に生活の中で活かせるよう努力をしている。</p>	<p>昨年の初回外部評価を踏まえて、管理者・職員一体となり、ケース会議等で確認や見直しを行い、業務全体の意識化が図られている。安心して生き生きと地域の中で暮らせるように、との事業所の運営理念を共有し実践されている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>自治会に出席し地区の行事等の参加に声をかけてもらい、参加した時は支援してもらっている。日頃生活の中での行き来も多くあり近隣の皆さんとの交流もあり利用者も楽しみにしている。</p>	<p>周辺住民との付き合いを大切にしており、行事等を通しての行き来は基より、普通の近所つきあいのように庭側から気楽に来所していただき、日常的な交流が保たれ、利用者と地域の方々双方の楽しみとなっている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域便りを通して病気の理解をしてもらったり、地域で困っている方の情報があれば包括と連携して訪問したりしている。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議には職員全員参加し、皆で意見の共有をしている。頂いた意見から施設の充実や利用者の支援に繋がっている。</p>	<p>会議には利用者(その日の状況により)・家族代表・全職員と多くの地域の方々や市担当者等が出席され、意見交換が行われている。“まずは気軽に寄って下さい”の意向を示し、委員の方々との関係作りを大切に、意見や協力を頂き、日々の支援へ繋げている。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>連携はとれていて常に相談連絡は的確にできているが、日頃という訳ではなく必要に応じてである。</p>	<p>運営推進会議に市担当者の出席を頂くと共に、入退所時の連携や相談等が随時行われている。また地域の方々の課題に対しては、地域包括支援センターと連携し協力関係を活かした取り組みが行われている。</p>	

外部評価結果(認知症高齢者グループホームいなほ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本人の希望と意思を尊重し拘束はしていない。今後重度化していく中で職員の倫理感の学習を重ねていきたい。	ホームは抑圧感の無い自由な暮らしを支援している。利用者によっては居室のドアに鈴を付ける工夫や、外に出て行く利用者にはさりげない寄り添い支援をしながら、なぜ外へ出て行ったのか、利用者の気持ちに近づく検討会等を行っている。	身体拘束等の排除の取り組みに関するマニュアルを整備すると共に、ケース会議等に於いて具体的な行為の理解を重ねていくことを期待します。なお玄関のチャイムの音量等についても再度職員で検討してみても如何でしょう。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の意識を高める学習会を持つようにしている。日々の暮らしの中で職員同士が築きあえる関係にしていきたい。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	できていないため今後学ぶ機会をもち必要に応じて援助していきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	納得できるよう説明はしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者機関や市の派遣サービス員を通じて意見が言える機会を設けている。	相談・苦情等の窓口のご案内をすると共に、市の介護相談員との懇談を行い、利用者やご家族に対しては、日頃から何でも言ってもらえる関係作りに留意され、機会あるごとに問いかけ、出された意見を運営に反映させている。	ご意見箱は設置されているが、現在苦情等は寄せられていない。今年度のホームの取り組みとして、ご家族向けのアンケートを計画中との事である。ご家族の率直な意見を把握し、運営に反映されるよう、取り組みに期待します。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に訪問やイベントに参加し、職員の意見を聞いてくれる。又環境面でも改善されている。	法人や所長は職員と一体となって、ホーム立ち上げから今日へと運営されて来られ、職員の思いを大切にされている。ホーム独自の自己評価表を作成し、個別面談や全体懇談等を通して、職員意見や提案を把握し、運営に反映されている。	

外部評価結果(認知症高齢者グループホームいなほ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>できていると思う。定期的に訪問をして意見を聞いている。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修と共に必要に応じて資格取得応援制度もあり、やる気を沸かせてくれる。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>社協内での訪問見学や交流会があるため積極的に参加できるよう配慮していきたい。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人の声を聞く事や仕草で本人の真の訴えを聞く力を持つよう、職員の教育に力を入れている。利用者との関係作りはできている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>上記同様努めているが家族も遠慮がまだまだあるように見えるため。今後家族との会話や交流に努めたい。又、家族によっては職員の対応が気になるとクレームもあり、具体的内容の話し合いを持っている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>市との連携も含め必要に応じて対応している。</p>		

外部評価結果(認知症高齢者グループホームいなほ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	馴染みの関係作りから生活の場として職員と利用者が力を寄せ合いながら暮らしを立てている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いろいろな家族の立場の理解があり、職員としても遠慮がちな点があった。共に支えあう視点からもう少し検討していきたい。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚などから聞いた情報や本人の希望を取り入れ、出かけたり人に会いに行ったりとできる限りの支援をしている。	利用者がこれまで馴染んできた人との関わりや生活習慣等を尊重し、屋号でお呼びしたり、法事やお墓参りに出かける等、関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話や利用者同士が助け合っている場面を見かける事が多くできていると思う。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連携や相談に乗ったり必要であれば、包括に繋げて訪問している。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用しながら本人の心の声を聞き取り、職員同士で共有し希望や意向に沿って支援できる体制をとっている。	センター方式を利用し、24時間シートや気づきノート・連絡帳等を活用しながら、担当した利用者の思いや希望等の把握に努めている。チーム会議の中で、職員同士の共有を図り、支援へと繋いでいる。	

外部評価結果(認知症高齢者グループホームいなほ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来事がある度。過去の影響もあるかもしれないと家族等と話を聞き今後のサービスに繋げている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース会議等を通じて利用者の状況の把握と担当制をとり、個人の環境に合わせた生活の支援に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関係者からの意見等をいただき実行しているが、計画に載せての実行ができていないため、その都度計画書の作成をしていきたい。	把握した一人ひとりの思いや意向に副った介護計画書作成に向けて、本人・家族・関係者等と話し合い、チーム会議で意見交換を行い進めている。モニタリングや随時の見直しを行い、3ヶ月毎の評価を通して、現状に即した介護計画を作成し支援されている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや工夫を気づきノートに記載し、共有し合っているが計画の見直しにはいたっていないため、記録の見直しと計画に乗せての実行にしていきたい。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域や地区社協やボランティアの協力を得ながら幅広く本人の希望を叶える対応に取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	上記同様地域の皆さんの力を借り、環境の整備や暮らしに楽しさや満足さがある支援を受けている。		

外部評価結果(認知症高齢者グループホームいなほ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医がいて定期的な往診の他、相談や困りごとの援助等して頂き、利用者も満足していると思う。	本人・ご家族の意向に副って、地域のかかりつけ医やホームの協力医が主治医となっている。定期的な往診や歯科医師の訪問診療を利用する等、適切な受診への支援がなされている。主治医や看護師との連携や職員の相談に対しても指導を頂く等の良好な関係が築かれている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	担当医の看護師と連携ができており、身体的変化の時など遠慮なく相談に乗ってもらい、主治医に繋いでもらっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医との連携により、入退院時の安心できる体制はとれているが、入院期間の限定もあり、実際には困難なケースもある。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応にはいろいろなケースがあり模索中であるが、身体的重度化に対しては当事業所の出来る範囲で対応しているが綿密な話し合い等ができていない。	「在宅介護の今が困難な利用者を受け入れる」を前提としており、重度化に向けては、現状で出来る範囲の精一杯の対応を行う、として、かかりつけ医の往診や訪問看護の協力を得て、職員への指示や指導を頂きながら、現体制で出来る支援をされている。	突然の利用者の重度化に直面し、医療関係者の理解・協力を頂くことが出来た。今後に向け、早い段階から本人・家族の意向や、どうあれば良いのか等、管理者や職員が率直な話し合いを重ね、方針の共有や体制等への取り組みを望みます。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回講習会を設けている他、職員同士お昼休み等に対応や些細な怪我等の手当て等話し合っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を重ね問題点や利用者の状況に合わせ、安全な対応策に取り組んでいる。地域の皆さんの理解もあり、連絡体制もとれている。	地区自治会や消防団等の協力体制が得られている。合同の防火訓練を行い、避難経路の確認等がなされている。車いす対応や重度化を視野に入れた課題も把握されており、今後の継続的な取り組みが望まれる。	

外部評価結果(認知症高齢者グループホームいなほ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴染みの言葉がけなど方言っぽい所はあるが、本人を傷つけない言葉がけに配慮している。	職員が発する何気ない言葉や対応に対して、チーム会議等の中で問いかけ 気になること・気にならないこと 等、自己の振り返りを行い、気づきを話し合い、利用者の誇りやプライバシーへの配慮がなされている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	向き合う時間や入浴時や夜間等傾聴し、真の声や訴えている意味を感じ取る職員であるよう指導している。入居時より、利用者の声が聞こえるようになった。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝茶の時など、今日の予定や天気など利用者と話しをし、本人の体調などに合わせ外出等支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣に自分の希望の物や気に入った物を着たり、2点の中から選んでもらったりしている。出かける時に化粧をしたり自然におしゃれを楽しんでいる。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1日の中で楽しい時間であるため、長めの時間をあけている。季節の野菜等の差し入れなど多くあり、食材を楽しむ時間に力をいれている。	ホーム周辺の採れたて野菜が届き、食材を中心に話題を豊かにされている。個人の湯飲み茶わんや箸立てが並び、6人の利用者を囲み、家庭的な雰囲気を感じられる中で、共に準備や後片付けを行い、楽しい時間を過ごされている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状態によって記録や量を書いているが、全体的な栄養バランスの把握ができていない。個別に合った支援はできているが記録として残っていないため今後検討したい。		



外部評価結果(認知症高齢者グループホームいなほ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	衛生士の口腔ケア指導を受け、職員も心得ている。食欲や健康管理にも繋がるため口腔ケアは大切にしている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツに対する考え方も職員で常に検討している。恥を欠かせないようトイレに誘導したり、本人の気持ちを尊重し、排泄の前後のさりげない支援にこころがけている。	一人ひとりの身体状態や排泄ケアについて検討を行い、方針を共有し、利用者の様子から、さりげなくトイレに付き添い、介助を行い、自立へ向けた支援が行われている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	不穏に陥りやすい原因ともなるため、記録をとりながら飲用やマッサージを取り入れている。下剤の服用も主治医と連携をとり調整をしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日の中で自由に入浴できる体制をとり、毎日楽しんでいる利用者もいる。	利用者の希望やタイミングに合わせて何時でも入浴できる体制になっている。24時間風呂であり、場合によっては夜間の入浴支援も行われている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具の衛生管理をしつつ状態をみて、休みたい時やその支援をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理と共に医師との連携や報告をして本人の様子の観察をしている。		

外部評価結果(認知症高齢者グループホームいなほ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事を通して、その人の生活に合わせた支援をしている。ドライブや他の施設や気に行った場所に出かける等工夫をしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて出かけている。天気の良い日は率先して外の空気を楽しむようにしている。地域の協力もありイベント等の送迎の支援をしてもらっている。	日々の散歩の他、地域の行事・イベント等への参加や買い物を楽しむ支援がなされている。市社会福祉協議会の送迎ボランティアの支援を受け、マンツーマンでの安全面にも配慮した外出支援が行われている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは預かっていて、行事の時本人が持っていて買い物を楽しむことはしているが、利用者の混乱があったため普段はお金を持っていない。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	全員ではないが、葉書きのやり取りや電話の支援をしている。季節ごとに絵手紙の作成等出来る方には支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	こじんまりしているため動きやすいスペースである。季節の花々を身近に感じたりできる。刺激になるような事は、職員の価値観を押し付けないよう配慮している。	民家を使いやすく改修・工夫して使用している為、多少の段差等はあるが、職員が配慮し、6人の共同生活には程よい共用空間となっている。明るい居間は地域の方々も訪れ、利用者との団らんの場となっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの場所や昔懐かしい物を置き、過ごしやすい場所の提供を工夫している。時間の制限をせず本人の休みたい時間は休めるようにしている。		

外部評価結果(認知症高齢者グループホームいなほ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族によって理解がある方とない方がいるように思える。時間をかけ本人の生活にあった居心地の良い場の提供を心がけている。	本人やご家族の意向に副って、写真が飾られたり、筆筒やお仏壇が持ち込まれ、その人らしい、居心地の良い居室への配慮がなされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居時より出来る事を確認し、居室の工夫を家族と共にしている。民家改修であるため玄関に段差があったりと危険箇所は幾つかあるが、利用者の状態に合わせてその都度対応している。		